

内科は 本当に 面白い！ ～生涯、輝き続ける素敵な内科医になろう～

内分泌代謝・血液・膠原病 内科学講座（第二内科）

教授・診療科長 益 崎 裕 章

同窓会の皆様には 平素より 私達、第二内科を御引立て戴き、診療・教育・研究の各分野で貴重な御指導・御高配を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

歳月の流れは誠に速いもので 京都大学から第二内科に着任致しまして 4年が経過致しました。

現在、第二内科は 大学院講座化に伴う名称変更により 内分泌代謝・血液・膠原病 内科学講座となり、副腎や下垂体、甲状腺や副甲状腺、膵内分泌（糖尿病）などの内分泌疾患、肥満症や脂質異常症、高尿酸血症などの代謝疾患、白血病やMDS、悪性リンパ腫や多発性骨髄腫に代表される血液疾患、関節リウマチや種々の膠原病、血管炎、自己炎症症候群などのリウマチ・膠原病疾患の診療・教育・研究を担当しております。内分泌代謝グループ・膠原病グループは講師の池間 朋己先生が、血液グループは准教授の友寄 毅昭先生がグループ長として頑張ってくれています。本年4月には7名の新入局員を迎え、若いちからを中心に 伸び伸び・自由闊達に仕事を進めております。

琉球大学 医学部附属病院の診療科の中で スタッフ平均年齢の若さは1、2を競うハイ・レベル（笑）ですし、女性医師が輝く教室作りを積極的に進めていることも私達の誇りです。例えば血液内科グループではスタッフ9名中、6名が女性であり、病棟医長も女性医師です（仲地佐和子先生）。近々、講座の中に女性スタッフ専用スペースを開設する計画です。医学部学生さんの約半数が女性という時代を迎え“生涯持続力”を持って輝き続ける女性医師の潜在能力を如何に上手に活かせるか・引き出せるかは 我が国の医療再生の未来を拓く鍵となります。第二内科には 妊娠・産休・育児という女性にしか 味わえない幸せを医師のキャリアと立派に両立して活躍している女性医師がたくさん居ますので、女子 医学生さんや女性 研修医の先生方にも大変お薦めの診療科です。

内分泌代謝・血液・膠原病という3領域をひとつの診療科で学べる意義も極めて大きいと思います。この3領域の共通点は 数多くの新薬が凄まじいスピードで登場している分野という点にあり、内科学の進歩や発展は常に医薬の進歩と連動して

いることを考え合わせると、第二内科の守備範囲は内科学の中でも 今、一番、盛り上がっている分野と言えるでしょう。日進月歩で進化している内科診療を教室員全体で学び、共有化することによって 内科本来の“総合内科医”としてのセンスや考え方を効率よく身に着けることが出来ると同時に、生涯持続力の基礎となる“リサーチ・マインド”を養う絶好の機会ともなっています。例えば 第二内科では 日本学術振興会 特別研究員でもある小塚 智沙代さんら若いスタッフが中心となって“分子栄養学”という手法を用いてメタボや糖尿病を改善する有効成分を玄米の中に見出すことに成功し、研究成果を3つの特許の公開・出願、英文論文として発表しています。これを踏まえ、日本の大学医学部 附属病院の中では初めて玄米食を入院患者さんにオーダー出来るようになりました。食や肥満という身近なテーマを切り口として脳科学・膵内分泌学の最先端医学の成果を高機能サプリメントの開発などの臨床応用に結び付ける面白い医学研究が進んでいます。

第二内科ではスタッフ間の家族ぐるみの交流と絆、病棟・外来の看護師さん、栄養士さん、薬剤師さんとのチームワークをととても大切にしており、新人歓迎会や忘年会などの行事の際には教室スタッフの御子様や奥様、メディカルスタッフの皆さんも多数、参加して下さいます。このような楽しい雰囲気をご様に御伝え出来ればと思い、最近のスタッフ歓迎会のスナップ写真を提供させて頂きます（写真中央で花束を携えているのが9階西病棟の糸数ちえみ看護師長さんです）。今後とも末永く 第二内科をどうぞ宜しく御願い申し上げます。

